寛永諸家譜

清和源氏辛七冊之内
義光流之内小笠原

47

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (47)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

南部　下山
淺野　淺原
大井　仁加保

寛永諸家系圖傳

清和源氏　章三

義光流
南部

義光
新羅三郎

義清
武田の冠者　地頭職

淺草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

清光

逸見の冠者

喜光

加々義次郎　清光が次男

光行

南部三郎　喜光が二男

文治五年七月頼朝卿泰衡を征伐の
あ奥列小後河の紀伊人々撰
まく軍約まこと
建久六年二月頼朝卿南部東大寺
供養のあと法の紀伊寺
南部なびく小石清水参詣の時伊寺
小列す
割畠と家の紋寺
菩提所と雲樹院と号す　法名悪岩

暉云

實光

長次郎

壽禎四年軍勢上洛の附従され騎馬

ならびに従者八人親王紙実大将軍

建長四年八月宗尊親王鶴岡八幡宮

小御所ならびに御参詣

御社参の記録ならびに

供奉す

同年十二月将軍彰考院

九歳御元服鶴岡へ御参詣の附従

ならびに

嘉禄元年三月二光房法名蓮林

素云

時實

又次郎

建長四年四月宗尊親王鎌倉御
入洛付供奉の侍ひとびとに
劔をとらせ給ふの其たぐひ
なり

同年七月宗尊親王西園寺の
若宮殿へ御出の時劔ひきぬ
をとらせ給ふ

小引す

同年九月宗尊親王鎌倉をおわ
ぬ

仁治元年おこなはる御所御劔役人
法名徳雲明仏

政元

孫次郎　法名俊巖宗仏

宗任

長二郎

菩提所を西本院と号す　法名直山宗仏

宗行

表五郎　法名慈山俊云

祐行

表次郎

善提寺と号寺院　法名雄山

海云

政連

泉二郎　法名善林明云

祐政

表六郎

善提寺と成院と号寺　法名寶山英云

茂時

右馬頭

国立公文書館
National Archives of Japan

元亨二年五月廿二日の夜の時分に
ごとく切腹せしより義貞の内室を
蓄髪ふかく敬浄寺

信長

伊勢守　法名天巖秀公

政行

重宗

軍忠を尽すかゆえ本領相違なる
べきやうなるのゆえ氏政軍より度々
北条教書をたまわる今ふ見なり
法名浄蓮公

守行

大膳亮　禅宗法師と号す
永正年中持氏逆徒退治のとき

宮おかせまいりて軍忠をぬきんでる
少弁下文を給わり奥判は曽祖を
うけたまわる御教書いまふたつ
家の幕の紋元来割菱たりと云ふ
秋田と南部とわたりたるとき軍中
よかわくとわれ雨降まいらずして
指利をもし拝へ給ひしを給う
ためわたのまい雨と紋を
善提寺は東禅寺と号す 法名祖山

義政

禅寺

元号
永享十一年菩提院義教追善の為
を建立のとき大きなる
菩提院より御感状を黒毋衣
を賜わる
善提寺と云雲院と号す 法名旭山

東云

政宣

大脳大夫　法名普林僧云

勝政

与次郎

善提寺ハ持院と号す　法名陽山京云

光政

彦三郎

善提寺と浄土宗院と号す　法名梁山

捷云

時政

長次郎

善提寺と真禅院と号す　法名奉山

夷云

通継

長次郎

善桂尼と法泉院と号す　法名一峯

天文

信時

左馬允　法名指山宗心

信義

嫡男　治理太夫

早世法名梅仙宗心

政康

次男　右馬頭

兄信義の養子となる次男なり也

こゝもとの所をはぶく

善桂尼と竜雲院と号す

傑山昌心　法名

安信

右馬允

菩提所と金剛院と号す　法名悦山

悦仏

晴政

義三郎

天文八年三郎の居城茶臼山の時

累代お墳の記文等焼失するもの

ゆえ菩提所と大慈院と号す　法名瓔山

懸仏

晴継

義三郎　母世

菩提所と興元院と号す　法名

芳樹院仏

弓信

九郎門尉　法名紙岩芳公
法輕の孫にて居す

信直

大膳大夫　弓信が嫡子なり
義之助晴純の母世に活身なりと云
うけ家をつぐ
天文十八年　君臣秀吉相引れ小豆を
紙罰のあり関東より下向の紀信直と云
寸秀吉より来国次の脇指をたまる
衣服羽織等をたまる
同十九年九月治理亮政實弓
れはうたとくらいのうちを右四
純吉利家はいく秀吉より進
られ九月紙罰のあり那賀中納言秀
次と大將として陣を二本松よりす
えづけ蒲生氏郷与浅野弾正弼

長政場屋等刀高晴井伊兵部少輔直
政等九郎の城とせめらるる紀信直
もしくくらるを河内九郎信あ
降参すうけ[illegible]族信等ふくく
誅せらる
文禄元年秀吉朝鮮を征罰の
紀肥前の名護屋ますて信直信等
慶長四年十月十日卒す 五十四歳
法名紀山心公

利直

信濃守
文禄四年従五位下に叙す
慶長三年秀吉薨去の時雲次の志りなるび
に粮料千石をたまる
同六年黒田一揆蜂起の紀
利直みづから兵を引かくこと数
返治せんとすのすえるおよびゆへ

士卒をみくたしたるをけり
しかるに聖武の出陣す
この紀白石一揆の事を物語
いとど利世はかることをたいらぐ
寛永三年九月二条の城に行幸の時
白河院殿の御ようを法皇御下に叙す
同九年八月十八日年すゑ五十七歳
南家院と号す法名月渓清石

重盛

山城守

元和四年十二月廿二日 法皇御下に叙す

家俊双舞雪

国立公文書館
National Archives of Japan

下山

先祖甲州に住す

光次

七郎兵衛　生涯武列

織田信長小姓

天正十年七十歳死

法名

長樂

正次

源八郎　生年二三列

天正十二年

東照大神君ヲ初メ奉リ沛代変ヲ

経給フ

寛永九年六十二歳ニ而病死法名

浮蓮

重次

平蔵　生年同断

寛永七年

右徳院殿ヲ初メ奉リ　鉤命ニ而沛

網戸ヲ役ス

信盛

五郎兵衛　生年武歳

元和八年

将軍家をはしめ奉り大御所と勧む

綱光

四位侍従　生母同所

東照大権現をはしめ奉る

右法院殿小法名奉る

光通

母宮腹　生母同所

寛永九年

将軍家より法名奉る

同十五年三十歳にて病死　法名

雲院

直次

母宮腹　生母同所

家紋　釘貫三蓋菱

国立公文書館
National Archives of Japan

浅羽

小笠原流

●真則

治部丞

生来書列

大膳亮へ仕之事

法名南山

真則

治部丞

大炊殿と申し奉る
寿永元年相州東国をおわく為
死　法名光順

貞次
治定
大炊殿
盛院殿
相軍家へ注し奉る

家紋雀

国立公文書館
National Archives of Japan

浅野

●系

七代治門尉　生年未詳

大膳亮法名入寂

葉次

次郎太郎尉　生年同分

大膳亮法名宗竹

章正（しょうせい）

孫二郎　生武蔵（むさし）

十二歳ヨリ

白川院殿ヲ始メ奉り

功軍家ヨリ召仕ハル者

家紋鄰（すりの）

淺草

二条

日光奉為　生国護外
夷列護国御入国の時石出されく
東照大権現小法の[illegible]
寛永年八十八　法名　明林常圓

京

藩籍　生国同所

天正十八年小田原沖陣の時

大御所小まつ様ひとり　御命ゝ受て

お別の御代をうけたまりる事

後藤別　山田沖代を受る笑堂を

つゞき四十二年ゝ家元　法名通信

宗香

正徳

又三郎　生国同所

大御所ゝ様ゝ大坂沖陣の供仕ル

二ゝ後

台徳院殿八ゝ様ゝ　御小ゝて小十人

組の御番ゝ勤ゝ

元和四ゝ年十月十日下総国市川へ

台徳院殿御鷹の野の御出ゝ供

抱て寄をなうばまれ寄門へ
則　鈎命ありて門より附
大小堂ぶたなる凍死寸年廿九法名
一雲道堂

正信

又二郎　生田同名
打軍家へ仕へ鈎命によりて小十
人組なる

信吉

又二郎

寛永十四年八月十四日病死附ス二十
七歳　法名圓室正珠

家紋十二本菱扇に日の丸　武蔵

国立公文書館
National Archives of Japan

大井

小笠原氏庶流

清和天皇十一代

長清

童名ハ　豊松丸　加ゝ美小次郎

寛保二年三月廿日引　小笠原氏　彼

国立公文書館
National Archives of Japan

長猛

童名ハ　孝光　孝治

治兼二年五月十七日山城国六波羅

ハ鈴ヶ岡ニ生ル

母ハ新中納言郎綱卿女

朝光

中条右衛門　大井七郎と号す

母ハ家の女房

政光

播磨ノ守　法名月山

政朝

法名梶山

政則

法名良鑑

政信

法名清林

忠孝

忠重

中務少輔　法名玄英

忠次

法名玄枝

忠勝

伊勢守　信濃守　小諸城主

忠成

法名道見　同国小諸城主

満雪

河内守

泡雪

貞隆

代々信濃守　伯耆村田の城主

家信より信列ち軍役の
数十六騎と出すうれば真隆千騎
れ和ちう
武田信虎志ちく真隆が地をを
ひ[illegible]ぬるうぎうち信玄れ
用ようちく真隆が老臣相談者四等
ちうぎと信玄より面じおちうく
真隆はかうくいく真隆り甲
府ようちうば信玄ゐ和睦せんく

芝小ようて真隆甲府小ゆく信玄則
ちれとうぬうく小ぬるぬつわる者
村田は城とうこいるこの記真隆が
家人おりく信玄より屬すうれら真隆
甲府ちうく死す　法名高臺

玄信

信列平嶺の城小信して平嶺玄信と
号す玄信勇力法人すぐれたのて

太刀をとりて刀の長さ八寸
文字は刀なり他りの附はの刀を下人
よりなをくはたらきがはしむ戦場よ
おもくなれはふうをとりて附の
人玄信がひろう太刀とり
真隆と信虎と合戦の附はかなず玄
信を先にけ手玄信戦場よおもむく
とて栗一顆と組の法ねをたくと
因陣の後うれ功をさりの栗とば
ふ

ふ者すくなう諸おかのく軍功を厚す
玄信戦場より出るとは法ねをトかし
て玄信先にけとなり退くとは
ふうをひろうれ一代の武勇なりく
ひろうをすうの海路はるかく
合戦のとき討死する武田信玄うれ武
威を感じて石地義と大門峠をたて
玄信とまつは武田信玄はいく使た文
字は刀大剛のものくをすかふ

まもるく仕る小姓組に召出される
とる指物付まる仕る

貞親

貞友

大学

貞清

宮内右馬尉

武田勝頼に属して長篠にて討死

法名大山

貞重

助右衛門尉

政信

法名玄勝

国立公文書館
National Archives of Japan

政行

孟西

政治

政後

肥後守

万立郎

祐清法師

政継

新太郎厨　民部丞　法名玄覚

信列耳元の娘をせめとりて居る史

り附の人うけ石を耳取とり

政成

民部大輔　石見守

武田信玄猶頼父子に属す

十六歳の子紀信玄より子孫列

薩摩の城とせるを紀州公よりきたら
て軍功なり敵ゝ鉄炮をうちく
政成が股よりうち是より後是なへうち回
由浦津の城よりわるく戦功なり

天正十年

東照大将現甲州出馬ハ附子政吉六歳
織政後を人質として幕下ゝ献じて
忠節なり

大将現光を御感なりく大井ハ也須
職を給る
寄出五年上方強動の附
石淀院殿宇治宮より本能寺を焼く御
上洛なりしゝ真田安房守昌幸を
かうして光をよんぶる附る
大将現政成がよく信州境目のよりとる
小ちり
石淀院殿ハ御ちびきを政成ゝ 作分
らる

関が原陣以後大田の城主となり
城をうめ屏をこわし城を守る
うけたり　釣命をうけて城を大田修理
信輝に仕る
同八年上野国沼田へ十六歳
にて病死　法名玄頂

政吉
民部少輔

二十一歳より
紀伊院殿に仕へ芦田氏組頭と
なる
大坂の役に御陣に供します
信州伊久野小宮山にて病死　十一歳
法名玄久

政重
五左衛門

政忠

与右衛門尉

政宗

彩右衛門尉　母ハ紫田七九郎　康忠女

十五歳より

白川院殿ゟ仕へ始めハ史の御書を

勤め後ハ大御書付役を

寛永元年

政次

与三兵衛門尉　母ハ上田

白川院殿ゟ　釣命ゟ

初軍家へ仕へ奉り御小姓役の御書を

仕る

政直

左十郎

家紋丸の内小松屋善兵衛

国立公文書館
National Archives of Japan

大井

先祖代次第大井新太郎政京

系図ハ伴ヲ

海人

小笠原　伊勢守

信濃小笠の城ヲ

一名ハ忠勝

海實

左馬允　一名八郎成

信列小法の城を

武田信玄小法の城をせめるゝ十二ヶ

法の小城なりしかたらう　和睦して信玄

に屬し中沢まで居す信玄と同時に

利發して道賢と云す

天正二年三月天神よりかわく病死年

海雪

海雪　生玉信列

信玄小法の人吉列三方原合戦の時

前級なりし

信玄信列小法をたゝかひて上列箕

輪小かわ十五ヶ村扶地をはらひく

生城せしむ證文数通ありし

三浦庄田新六郎上野を給まる付
庄田より庄田改易の後
東照大権現甲州新府へ御出被付
松平安房守言上して満雪が忠志
を上聞に達まるべき旨被
仰渡しまる事多作為正信これを
うけたまる
奥列座たまじ信列上田座敷記
石清院殿より三ヶ条
鈴令

信
乗
乗

にもつて上列を給の御書を勧む
寛永四年六月四日諸府より病
死歳八十六 法名一道

三河山 友誉

角之亟

円記

一一六年行田市立博物館
寄託

系

義茂

海義

小出信　生田河内

實ハ俊田右馬助子ニ而　満雪ゟ養子

ニ成

右盛院殿小法入道ニ而河内大坂表の

陣傳ニ付事

元和九年　紀州ニ而被刑ニ成りしき

大御番を勤む

寛永九年七月

松平家へめしかゝ御扶持を給

同十六年　紀命ニ而御暇を出

番を免ス紀州ニ知行を給ス

海安

三郎兵衛

家紋頭合松皮菱

系

仁加保

系

大井伯耆守　生母信列

生母仁加保と倶ぐるにより仁加保

と称号す

系

大和守　生母羽列　能見守

拳晴

大和守　生田同名　佐地同名

拳誠

会庫頭　生田同名　佐地同名

秀吉小田原へ御出陣

東照大将現へ出馬

御陣院殿小田原へ御

出馬天正年與列侯の記　作者

よりて列侯小田原城を攻る御

黒印を給ふ又

大将現は命ありて同国忍城を攻おと

し敵なりとて拳誠も又府

をとり城を攻給ふ

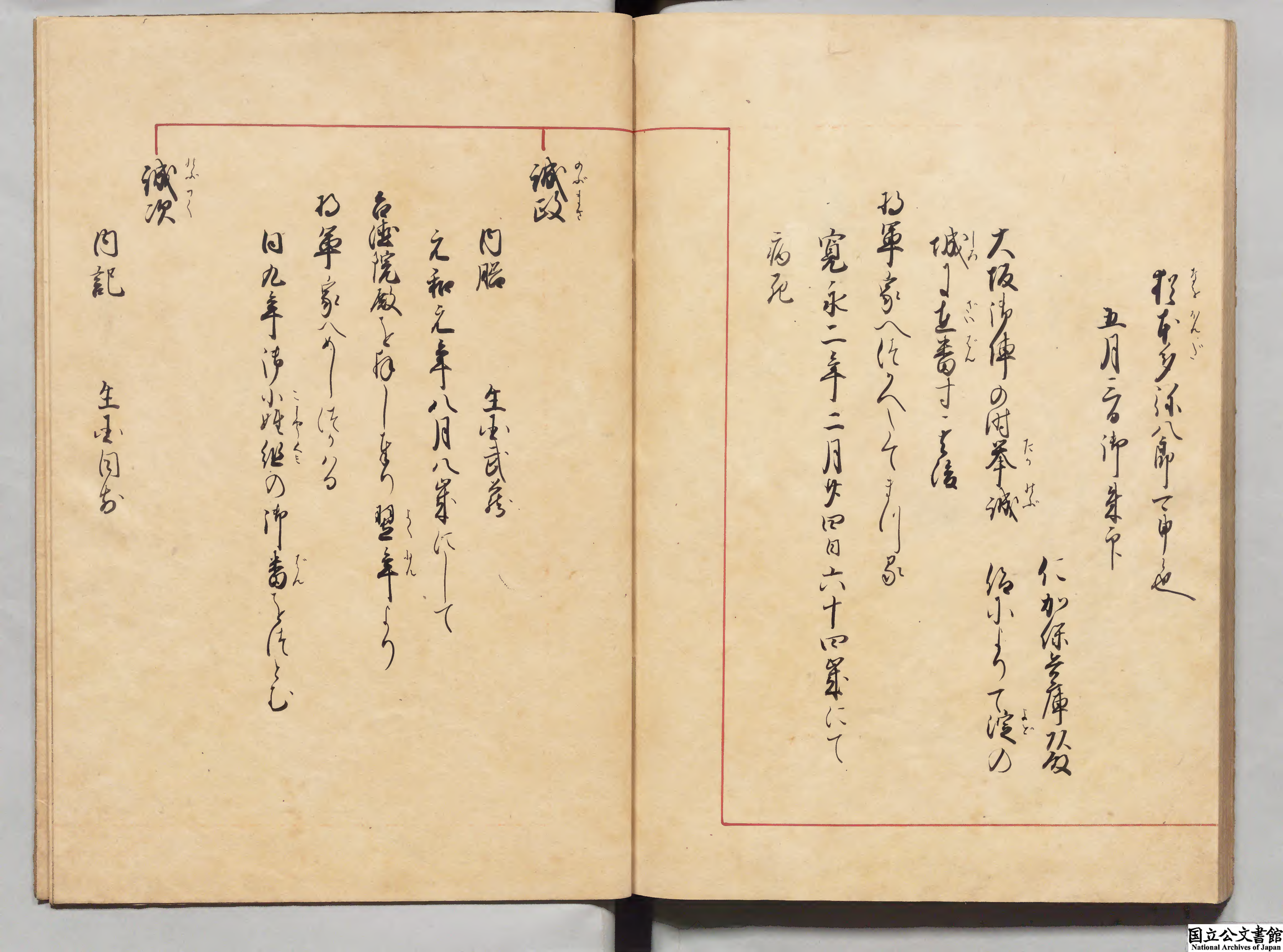
詞書いく

江戸帰到来被見作の書を相

御始管野御

指揮被成謁杉骨被誠威器は

相模守泉八郎平申遣
五月二日御出京
大坂御陣の時参城
仁加保兵庫助
給ふ
城中之書付こ
為
為軍家へ仕へ
寛永二年二月廿四日六十四歳にて
病死



相列仁加保上列一宮を以ず

家級一文字三里

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan